神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

現代中国語における「シテイル/シテイタ」相当表現 : 日中のアスペクト対立に見られる視点と主観性

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2010-11-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 下地, 早智子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/425

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

現代中国語における「シテイル／シテイタ」相当表現

——日中のアスペクト対立に見られる視点と主観性——

下　地　早智子

0.「シテイル／シテイタ」の中国語訳

現代中国語において，日本語の「継続相」[1]には一般に次の形式，またはその組み合わせが対応するとされる。

A.　V- 着 zhe　　(1)

B.　在 zai-V　　(2)

C.　S 呢 ne。　　(3)

しかしながら，実際の用例を観察すると，次の形式が対応する場合や，

D.　V- 了 le　　(4)(5)(6)

E.　無標識の動詞　(7)(8)

逆に，“V 着”の日本語訳に「シテイル／シテイタ」などの「継続相」を用いることが出来ず，「スル／シタ」などの「完成相」を用いなければならない場合もある（これを F とする。例（9-11））。

小稿では，A-C の役割分担を確認するとともに，特に D-F の場合の説明に力点を置きつつ，日本語との対応関係を体系的に整理し，両言語のアスペクト対立の特徴について，「視点」という観点から考察してみたい。

1　金水（2000）は，「シテイル／シテイタ」の意味として，動作の進行，結果状態の持続，パーフェクト相，反復相，単なる状態，を挙げているが，「完成相」としての「スル／シタ」との対立から，本稿では便宜上まとめて「継続相」と称する。同様に，中国語の「シテイル／シテイタ」相当表現も「継続相」と称する。

A.“V- 着 zhe”の例

（1）a. 妈妈站在窗口，向我挥着手。（常用词：959）

（お母さんが窓辺に立って，私に手を振っている。）

b. 老师今天穿着一件红上衣。（常用词：959）

（先生は今日赤いシャツを着ている。）

B.“在 zai-V”の例

（2）a. A：老师在做什么？怎么不来上课？

B：老师开会呢。课取消了。（刘月华2001：232）

（A：先生は何をしているの？なぜ授業に来ないのですか？

B：先生は会議です。授業はなくなりました。）

b. 早上我正在洗澡的时候，有人打电话来。

（朝ちょうどお風呂に入っているときに，誰かが電話をかけてきた。）

c. 明年这个时候，你会在做什么？

（来年の今ごろは，何をしていますか？）

C.“S 呢 ne。”の例

（3） A：王小朋在吗？

B：他上厕所呢。过一会儿再打吧。（刘月华2001：423-）

（A：王小朋さんはいますか？

B：お手洗いに行っています。しばらくしてからまたお電話下さい。）

D.“V- 了 le”の例

（4）（猫の死体を発見して）

a. 猫が死んでる。

b. 猫死了。／ * 猫死着。（井上・黄2000：119）

（5）大民妈：“我就买了一瓶醋，给了你十块钱，你没找钱。”

店员：“不可能。你再好好找找。”

大民妈：“我就带了十块钱，全给你了，你没找我。”

店员：不可能，找你了。（贫嘴）

「私は酢を一瓶買って，あんたに十円あげた。あんたはおつりを渡さなかった。」「そんなはずない。もう一度ちゃんと探しな。」「私は十円札一枚だけ持っていた，全部あんたに渡した。あんたはおつりを渡していない。」（* 私は十円札一枚だけ持った，全部あんたに渡した）

「そんなはずないよ，おつりは渡したよ。」

（6）亿文：“小何还有一件事情没告诉你们说呢，刚才我听小贝说在公园里头，他看见有个小男孩叫小何妈妈。”

贝贝：“小哥哥还哭了呢。”（田教授４）

「シャオハーはもうひとつ隠し事をしていたわ。今さっきシャオベイから聞いたの。公園で男の子がシャオハーをママって呼んでたって。」

「しかもお兄ちゃん泣いてたよ。」（* しかもお兄ちゃん泣いたよ。）[2]

E.　無標の動詞

（7）我知道他的名字，但是不了解他。（常用词：985）

（名前は知っているけど，彼のことはよく知らない。）

（8）亿文：“小何还有一件事情没告诉你们说呢，刚才我听小贝说在公园里头，他看见有个小男孩叫小何妈妈。”（田教授４）

「公園で男の子がシャオハーをママって呼んでたって。」（? 呼んだっ

2　先行研究では，次の例が指摘されている。

（i）J. 子供が泣いている。見てきなさい。

C. 小孩儿哭了。你去看看。（荒川1991：20）

（ii）J. トットちゃんは，先生と，指きりゲンマン！をした。先生は笑っていた。

トットちゃんも，先生がうれしそうなのを見て，安心して，笑った。

C. 校长先生和阿彻钩了钩小指头，校长先生笑了。阿彻看校长先生很高兴，也放心地笑了。（菅谷1996：177）

荒川（1991）は上記の例の指摘に留まっており，菅谷（1996）は，「「了」の文末での＜実現＞と＜気づき＞の意味が融合して「V- テイル」に対応している」（p.179）としている。

て。）

F.“V- 着 zhe”の日本語訳が「シテイル／シテイタ」にならない場合

（9）“讨厌。”林蓓白了已远远而去的马青一眼，回头甜笑着。她穿了一领印着个大大“P”字的棉织圆领衫。（玩）

「いやーね。」リンペイはすでに遠く運ばれていった馬青にツンと冷たく一瞥くれてから，くるっとふり返ってクスッと笑った。彼女は大きく「P」のアルファベットがプリントされた綿の丸首の T シャツを着ていた。（? クスッと笑っていた。）

（10）王明说着，不由就笑了，……（王明はそう言って，おもわず笑った，……）（ネイティブの通常の解釈では，言い終わってから，笑う）（讃井2000：59）

（11）“敏”亚丹忽然用颤抖的声音在敏的耳边唤着。敏含糊地答应着。

（「敏君！」と，亜丹は突然ふるえ声で敏の耳もとで呼びかけた。敏は「うん」とあいまいな返事をした。）

（? ～は耳もとで呼びかけている。敏は～返事をしている。）

（巴金：爱情三部曲，讃井2000：59）[3]

1. 「継続相」の意味と動詞分類

1.1 アスペクト対立を持たない場合

1.1.1 恒常，習慣，反復を表す場合など

恒常的，習慣的，反復的動作を表す場合に無標の形式が用いられるのは日中両言語に共通しているが，（12）に見られるように，日本語では習慣と反復にも形式対立があり得るのに対し，[4]（13-14）のように，中国語では常に無

3　讃井（2000）は，この状況を「“V 着”は動作が「実現し一定時間持続する」ことは積極的に主張しているが，「一定時間持続した動作がすでに終結しているか否か」については何も主張していない。終結しているかどうかは，完全にコンテクストに依存する」（p.59）ことの根拠としている。

4　「反復相はスルでも表せるが，シテイルの方が一時的・偶発的な傾向を表しやすいのに対し，スルがより本質的・恒常的な特性を表すのに適している。」（金水2000：42）

標の形式となり，逆にアスペクト形式を付加してはならない。

（12）a. 私は毎晩晩酌をしている。　　b. 私は毎晩晩酌をする。

（13）我在学生时代每天记日记。　　（張継英2000）

（学生のころは毎日日記を付けていました。）

（14）我每天晚饭时喝酒。（私は毎晩晩酌をする。）

1.1.2　アスペクト対立を持たない動詞について

金水（2000：34）によれば，日本語の静態動詞は形態的には動詞であるが，意味的には形容詞に近く，アスペクトの対立を持たない。日本語のアスペクトの対立を持たない動詞として，同文献には次のようなものが挙がっている。

（15）a. シテイル形を持たないもの：ある，居る，要る，できる（可能），など

b. シテイル形しか持たないもの：

ばかげている，優れている，変わっている，など

c. スル形とシテイル形でアスペクト性の対立のないもの：

存在する，相関する，対立する，上回る，など

つとに太田辰夫は，「いったい中国語の動詞は，それ自身で“持続”を表すことのできるものが多い」（太田1950：68）と記しているが[5]，長く中国語の白話研究において語感を磨きぬいた研究者の実感の通り，中国語ではアスペクト対立を持たない動詞の範囲が日本語より広く，継続相に関しては，概ね以下の四つの状況が考えられる。

（16）a. 静態を表すので，“在”“着”が用いられない[6]：

5　杉村博文氏も筆者との個人的談話において，「中国語は日本語より状態動詞が多い」旨の発言をされたことがある。

6　太田（1947）の「静態動詞」に等しい。（16a1）は，陈平（1988）の“表示属性或关系的动词”（属性や関係を表す動詞），（16a2）は同文献の“表示心理或生理状态的动词”（心理や生理状態を表す動詞）からとった。

a1 絶対的状態を表す動詞類：

有（ある）[7]，在（ある），是（だ，である），等于（等しい），好像（似る），姓（苗字とする），叫（～と称する）など

a2 内面動詞の一部（特に二音節動詞）

爱（愛する，愛している）[8]，知道（知る，知っている）[9]，了解（理解する，理解している），相信（信じる，信じている），明白（分かる，分かっている），懂（わきまえる，わきまえている），认得（見知っている），懂得（分かる），记得（覚えている），など

b. 静態的側面を含まないので，“在”“着”と結びつかない[10]：

败（負ける），来（来る），去（ゆく），走（さる），到（つく），进（入る），完（おわる），死（しぬ），断（たえる，切れる），灭（消える），折（折れる），忘（忘れる），坏（壊れる），中（当たる），散（解散する），结婚（結婚する），离婚（離婚する），毕业（卒業する），成立（成立する），出现（出現する），投降（投降する），提拔（抜擢する），批准（批准する），结束（終る），など，及び「動詞＋結果補語」形式

（16a）の動詞類は，動的側面を含まないので，命令文にならないという共通の特徴を持つ。

（17）存在のあり様を描写する動詞。“着”とは相性が良いが，通常動作進行の局面が目立たないので，“在”が用いられない，もしくは用

---

7 “有”に“着”の付く例についてはいくつかの指摘がある。太田（1947:40）では，“有着”は「方言を反映したものであり，北京語としては蛇足である」との記述がある。新しい例については，方梅（2000：39）に“有着”“存在着”の例が挙がっているが，このような表現は書面語的色彩が濃厚であり，口頭では用いられないのではないか。

8 “爱着”はヒット歌《老鼠爱大米》の歌詞を中心に用例が増えたようであり，方梅（2000:39）にも内面動詞に“着”がつく動詞の例として挙げられている。

9 金田一（1950）の動詞分類研究が，中国語の無標の“知道”と，日本語の「知る」のテイル形の非対称から始まっていることは良く知られている。中国語学においては，同時期に太田（1947）が，“着”の下接の可否による中国語の動詞分類を行っている。

10 太田（1947）の「完了動詞」，马庆株（1981）の“非持续性动词”（非持続性動詞）。

いにくい[11]：

自動詞：坐（座る），躺（横になる），站（立つ），蹲（しゃがむ），藏（隠れる）

他動詞：挂（かける），包（つつむ），摆（並べる），贴（貼る），装（包む）

（18）“在”には用いられるが，“着”を下接することのできない動詞：

教（教える），给（与える），参加（参加する），怨（怨む），出版（出版する），误会（誤解する，誤解している）

（18）の動詞類については，従来あまり指摘がないようであり，小稿でも偶発的に用例に出たものをネイティブと辞書に確認したのみで，特徴がよく分からない。動作の均質性（homogeneous）を欠くという特徴が考えられるかもしれないが，例外もあり，今後詳しい検討が必要である。

以上により，日本語との非対応の幾つかが説明可能となった。E の例（7）は（16a2）の動詞，（8）は（16a2）が用いられたものである。中国語と日本語の動詞は，近い意味を持つものであってもアスペクト的性質が異なる場合があり，特に中国語では日本語の静態動詞に相当する動詞の範囲が日本語よりも広いことにより生じたずれであるといえる。

1.1.3　文　脈

中国語では，文脈により継続相の標識が明示されないことがあり，[12]前掲太田（1950:68）はこのような事情も視野に入っているのではないかと思われる。

（19）“你也等人？”她点点头。“我也等人。”

「あなたも人を待ってるんですか？」彼女はうなずいた。「僕もそうなんです。」　（王朔：给我顶住，讃井2000:60）

（20）“你找谁？”“我找王教授。”

11　陈平（1988）の“表示处所位置的动词”（場所位置を表す動詞）からとった。

12　讃井（2000）の指摘のように，この状況は郭锐（1997）に対する鋭い反例となる。

「誰をさがしているのですか？」「王先生をさがしています。」

（「どなたにご用件ですか？」「王先生にです。」）

ただし，（20）は慣用的な表現であり，より相応しくは括弧内の日本語訳に相当する。アスペクト標識を加えて“在找”とした場合には，より具体的な「さがす」動作が進行中であることを意味することとなる。

1.2　二段構えの動詞

主体動作・客体変化動詞，姿勢の変化や事物のある場所への付着を表す動詞類は，＜進行＞と＜結果＞の両方の局面に注目することが可能である。以下，これらの動詞を「二段構えの動詞」[13]と呼ぶ。

“在”と“着”は二段構えの動詞に用いられる場合に，意味の対立が最も鮮明になる。逆に結果状態を含まない持続動詞類（吃，走，等，下（雨），など）に用いられる場合に意味の対立が最も不鮮明になる。

（21）二段構えの動詞

a. 自他の転換のないもの：穿（着る），戴（かぶる），帯（つける），拿（持つ）

例．他在帯手表。（彼は時計をつけている（ところだ））＜進行＞

他帯着手表。（彼は時計を（身に）つけている）＜結果＞

b. 他動詞から自動詞に転換するもの：

开（開ける），关（閉める），摆（並べる），搁（置く），など

例．他在开门。（彼はドアを開けている（ところだ））＜進行＞

门开着。（ドアが開いている）＜結果＞

また，多くの指摘があるように，二段構えの動詞においては，“着”と

13　用語と動詞の具体例については，太田（1947）を参照して欲しい。李临定（1985）による“具有两种功能的动词”（二つの機能を具えた動詞），荒川（1986）による「段階性」を有する動詞類に関する指摘も重要である。日本語については，金水（2000）における「二側面動詞」がこれらに近いが，対象とする動詞の範囲が狭く，「太る・痩せる」「増える・減る」「伸びる・縮む」のような漸進的な量の増減を表す動詞類のみを指す。

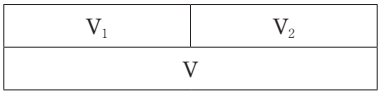
“了”がほぼ意味を変えずに互換可能となることがある。

(22) a. 他穿了一件工人的蓝布褂子，油渍的草帽在手里，一双黑皮鞋，有一只鞋带早不知失在哪里。（雷）

彼は紺色の作業服を着ており，油のついた麦藁帽子を手にしている，…

b. 左腋下挟着一只球拍，右手正用白毛巾擦汗，他穿着打球的白衣服。（雷）左の脇にラケットをかかえ，右手の白いタオルで汗を拭いており，彼はテニス用の白い服を着ている。

これについて，多くの論者がほぼ同趣旨の説明を行っているが，中でも任鷹（2000：29-30）の以下の説明が明快である。



一つの動詞（V）が動態義（V_1）と静態義（V_2）を含む
（任鷹2000：30）

「由于“V_1”的完成便等于进入“V_2”的状态，所以“V_1了”就等于“V_2着”，在语言结构中的表现便是“V了”等于“V着”。这是用不同的方式，以不同的视点对同一现实现象景象作出的描述，两类结构基本同义。」(p.30-31)

（“V_1”の完成はすなわち“V_2”の状態に入ることと等しい。したがって“V_1了”は“V_2着”と等しいということになるが，言語表現上は“V了”が“V着”と等しいことになる。これは異なるやり方と視点で同じ現実の現象に対して描写を行っているのであり，二つの構造は基本的に同義である。）

さて，Dの例（5）は二段構えの動詞が用いられたものではあるが，下線部を“我就带着十块钱”とすることはできないので，動詞分類のみではなお問題の残る例ということになる。

2．中国語の「継続相」諸形式の役割分担

本節では，日中アスペクト形式の本質的な違いを考察するための準備として，日本語の「継続相」に対応する中国語の複数の形式の役割分担を整理しておく。

2.1 “V- 着 zhe”と“在 zai-V”

この節では，“V- 着”と“在 V”の違いについて，先行研究の記述を整理する。

“V 着”はもともと「付着」や「留存」を表す動詞に下接し，ある場所へ具体物が付着することを表す結果補語から発展した可能性が高い。[14]

（22）a. 他穿着大衣　＜結果＞　　b. 他脱着大衣　＜進行＞
　　（彼はコートを着ている）　　（彼はコートを脱いでいる）

（23）a. 他留着胡子　＜結果＞　　b. 他刮着胡子　＜進行＞
　　（彼はひげを伸ばしている）　　（彼はひげを剃っている。）

（木村1981：25）

“在 V”の起源については，古白話において“在那里”（場所の前置詞＋指示詞「そこで」）が動作進行のマーカーだったことが指摘されている。[15]

例文（21）のような二段構えの動詞の例から，最も基本的には，“V 着”は結果状態の持続，“在 V”は動作の進行を表すと言って良い。“V 着”が進行を表す例は（22b）（23b）のようにないことはないのであるが，先行研究では，進行を表す“V 着（O）”はそれだけでは文終止せず，後続文を必要とする（陈刚1980，刘一之1999，方梅2000）という指摘がされている。方梅（2000）や三宅（2005）はこれを“着”の「背景化作用」と呼び，進行を表

14　石毓智・李讷（2000：144-146）では，もともと付着を表す動詞だった“着”が補語として用いられ，「付着」対象や「到達」先の場所を目的語にとるようになったことが示されている。

15　北方語における“在 V”による進行表現はかなり新しく，伊原（1982）によると1930年ごろである。日本で出版された中国語の教科書に同形式が現れるのも極めて遅く，『官话指南』（1882），『急就篇』（1933），『支那語会話』（1937），『中文会話教科書』（1964）のうち，はっきりした例は『中文会話教科書』に一例見られるのみである。（下地（印刷中））

す“V 着”は，何か別の出来事が起こる背景的な場面を描く際に用いられるとする。(24) は，三宅（2005：128-129）の例である。

(24) 骑着车，又把该说的话想了一遍。

（自転車に乗りながら，もう一度言うべきことを考えた。）

動作進行を表す場合のみならず，状態持続の“V 着”も背景描写的である。

(25) 我的房间里墙上挂着一幅山水画，桌子上摆着一瓶花，书架上有很多书，桌子旁边放着一张床，床上铺着一条毛毯。 （刘月华2001:392）

（私の部屋の壁には山水画が掛けてあり，机には一瓶の花が飾られており，書架にはたくさんの本があり，机の横にはベットが置かれており，ベットには毛布が敷かれている。）

また，多くの先行研究に引用される藤堂・相原（1985:76）による説明をここでも引用しておきたい。藤堂・相原（1985:76）では，“在 V”は主語がどういう種類の動作・行為をしているのか，話し手が認定・判断し，それを説明する（写真の比喩を用いていえば，パン・フォーカス）ものであるとし，これに対して，“V 着”は V の様やすがた（相）がどうであるか，V の様態を凝視して描写するものであるとする。(写真の比喩でいえば，ズーム・インとズーム・アウト）藤堂・相原（1985）の説明はやや抽象的なのであるが，朱継征（2000）はほぼ同趣旨の結論（動作の種類を問う場合は“在”，アスペクト的状況を問う場合は“着”）について具体例を挙げつつ説明している。

(26) Q：你干嘛呢？（何やってるの？）

A1：我在看书呢。(本を読んでいます。)

A2：* 我看着书呢。 （朱継征2000：49）

(27) Q：小明，外边下没下雨？（明さん，外は雨が降ってますか?）

A1：下着呢。(降ってますよ。)

A2：* 在下雨呢。

A3：没下雨，在下雪。（雨は降っていませんが，雪が降ってます。）

（朱継征2000：55）

（26）のように，動作の種類が焦点となる場合[16]には“在 V”のみが用いられ，（27）のように動作の継続する局面に焦点が置かれる場合[17]は“V 着”のみが可能となる。

また，動作の局面ということとは別に，動作の一連の手順をどこまで視野に入れるか，という観点からも“在 V”と“V 着”の違いが指摘されている。例えば，「歯を磨く」という行為には，①「歯ブラシに歯磨き粉を付け」，②「コップに水を入れて」，③「歯ブラシで歯をこすり」，④「うがいをする」という一連の手順が含まれている。丸尾（2006）によれば，“在刷牙”は①～④のすべての手順で成立するが，“刷着牙”は③の手順でのみ成立するという。

同様に，「電話する」は①「受話器を取り」，②「番号をダイヤルし」，③「発信音を聞き」，④「相手と話す」などの手順が含まれるが，“打着电话”が意味するのは④の段階のみなので，次の（28）では“在 V”のみが成立する。

（28）a. 我在给他打电话，但是总也打不通。

b. * 我给他打着电话呢，但是总也打不通。

（私は彼に電話をしているが，一向に通じない。）

（丸尾2006：129）

以上をまとめると，“在 V”は動作の進行を表し，前景的情報を担い，動作の種類に対する判断に主眼が置かれ，出来事の一連の手順を少々引き気味のカメラ・ワークでおおまかに捉えるものであるといえる。これに対して“V 着”は，主として結果の持続を表し，背景的状況の描写を担い，アスペクト的状況（継続，持続的局面）に主眼が置かれ，当該の動作のみを接写的

16　朱継征（2000）の言葉では，「動詞の外部状況に焦点」（p.47）。
17　朱継征（2000）の言葉では，「動詞の内部状況に焦点」（p.54）。

に描くものである。

2.2 “S 呢 ne。”

“呢”の用法は，（a）疑問文の文末に用いる，（b）新情報の伝達，（c）動作の進行を表す，など複数にまたがっているが，この三種の用法は，「新情報の伝達」を中心に，緩やかに連続しているもののように思われる。

刘月华等（2001：421）によると，文末に“呢”の用いられる疑問文は，通常の疑問文とは異なり，何らかの背景や前提がある場合に用いられるという。

（29）a. 小李，你去不去打球？（李さん，球技をしに行きませんか？）

b. 小李，我想去打球，你去不去呢？

（李さん，僕は球技をしに行きたいのですが，あなたも行きませんか？）

聞き手に新しい情報を伝えたり，或いは聞き手の注意を促す，さらに誇張的ニュアンスが含まれるという“呢”については，刘月华等（2001：422）には次の例が挙がっている。

（30）电影八点才开始呢，现在去太早了。

（映画は８時に始まるんですよ。今行くのは早すぎます。）

（31）孩子们听了这个消息，可高兴呢！

（子供たちはそのニュースを聞いて，それはもう大喜びでした。）

（30）の“呢”は，聞き手に対して映画開始の時間について注意を促すものであり，新情報を（または，情報を新情報として）伝えるものである。（31）は誇張的ニュアンスの用法であるが，聞き手に新情報を伝える“呢”を用いることによって，「子供たち大喜び」の情報が焦点として前面に押し出されたものであるといえるだろう。

さらに，動作の進行を表す“呢”には次の用例が挙がっている。

（32） A：王小朋在吗？（王小朋君はいますか?）

B：他上厠所呢。过一会儿再打吧。

（トイレに入ってますよ。あとでまた電話して。）

（33）A：你出来一下可以吗？（ちょっと出て来れない？）

B：我正炒菜呢。什么事？（今おかずを炒めているんだ。何の用？）

（32-33）の下線部の動作は，確かに進行の局面を表しているが，その一方で，聞き手に対して新情報を伝える発話でもある。

太田（1950：68-71）は，文末助詞の“呢”について，次のように説明している。

「筆者はこのような“哪”を次のように説明する。

“動作・事態の主観的な現在における存在を指示するものである。”

（下線は引用者による）（中略）

“他坐着”では基点時において動作事態が存在していない。“哪”を用いるとはじめて相対的基点時において存在することになる。“哪”とあわせて考えるべきものに助詞の“了”がある。[18]」

新情報の“呢”は，基本的には状態述語文に用いられるものと考えられる。[19]これに対して動作進行の“呢”は，当然ながら動作述語文に用いられるものである。動作述語文の文末に置かれる“呢”は，発話時において聞き手が気づいていない動作・事態の存在を伝えるものであり，結果的に進行を表してはいるが，本質は新情報を伝える“呢”と同質のものと考えて差し支えないであろう。疑問の“呢”は，既知の情報を提示した上で，聞き手にさらなる新情報を求める用法である。したがって，状態述語文における新情報を伝える用法を中心に，三つの用法に繋がりを認めることができる。

2.3　中国語「継続相」諸形式の使い分けのまとめ

以上の検討を表にまとめると次のようになる。

18　引用文中の“哪”は本稿の“呢”を指す。また，森（2000）も参照して欲しい。

19　状態的意味の情報的性質については，金水（2001）を参照して欲しい。

	“V- 着 zhe”	“在 zai-V”	“S 呢 ne。”
意　　味	結果状態 （開いた形）	動作進行	設定時における新情報の存在（停滞）
命　　題・ モダリティ構造	命題 ←→ モダリティ		
情　報　構　造	背景的な情報 ←→ 重要度の高い情報		
視　　点	動作内，接写	出来事内， 近距離長回し	出来事の外，設定時
対　立　形　式	“V- 了 le” （閉じた形） 重要度の高い情報		“S 了 le。” 設定時における変化の飽和点への到達 （流動）[20]

3．日中「継続相」の視点と主観性

3.1「スル／シタ」「シテイル／シテイタ」の対立と視点（金水2000）

本節では，日本語のアスペクト形式の選択には，出来事時と基準時（話し手の視点の置かれた時点）という二つの時点の関係が重視されていることを，金水（2000）の記述に即して確認する。

まず，「スル／シタ」の対立について，「シタ」には代表的な用法として，完成相過去とパーフェクト相現在の用法が認められる。

（34）「彼の話はよく解ったか？」「いや，よく解らなかった。」〔完成相過去〕　（寺村1984：120-121）

（35）「私の言いたいことはこうこうだ。どうだ，解ったか？」「いや，まだ解らない。」〔パーフェクト相現在〕　（寺村1984：120-121）

金水（2000：56）は，「完成相過去とパーフェクト相現在とは，意味的にきわめて近い関係にある」として，次のように説明している。

「前者は，発話時から完成的に捉えられる出来事を過去に位置付けると

20 “S 呢 ne。”の「存在」「停滞」に対する“S 了 le。”の「到達」「流動」は，共に太田 (1950) からとった。

いうものであるのに対し，後者は，設定時（視点）＝発話時が出来事の限界達成後の段階にあるという認識を示すものということになるが，つまるところ出来事の主観的な捉え方の違いであり，その境界を引くことは難しい」（p.56）

すなわち，二つの用法は，共に話し手の視点が出来事後の時点に位置するという図式で捉えられることになる。

また，継続相の意味について，金水（2000：21）は次のように公式化している。

「継続相の意味は，設定時（RT）および出来事時（ET）を用いて次のように規定できる。＜運動の過程または結果状態＞⊇ ET ⊃ RT」（p.21）

すなわち，継続相が用いられるとき，出来事時は当該の動作の過程や結果状態と同時的であるか，その中に含まれており，話し手の視点も当該の動作の過程や結果状態の中に含まれているということである。

以上により，日本語の完成相と継続相の対立は，出来事時と基準時（話し手の視点の置かれた時点）の時間軸上での位置関係によって決まっていることが確認できた。

3.2 “了”“着”の対立と視点

井上・黄（2000）は，日本語と中国語のアスペクト対立の本質的な違いについて，「中国語のアスペクトは「事象そのものの形」を基礎としたカテゴリーであるのに対し，日本語のアスペクトは「事象と時間の関係」を基礎としたカテゴリーであり，「事象そのものの形」はそれほど重要ではない」（p.119）のように正しく捉えている。

（36）a. 私はずっと彼を待っていた。

b. 我一直等着他。

（37）a. 私は彼を３時間待った。

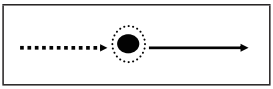
b. 我等了他三个小时。／＊我等着他三个小时。

（38）（猫の死体を発見して）

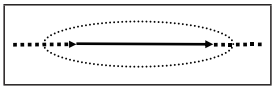
a. 猫が死んでる。

b. 猫死了。／＊猫死着。　　（井上・黄2000：119）

（36-38）を図で考えてみよう。

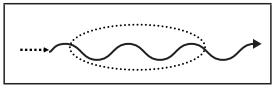


（39a）“猫死了。”



（39b）“等了三个小时”

（39c）“等着”



（39d）“在等”

（39）の図中の点線で囲まれた部分は，アスペクト形式が出来事のどの部分を切り取っているかを示したものである。1.1.2で見たように，中国語の“死”のような変化動詞は，（39a）の点線で囲まれた箇所のように静態的側面を含まず，動詞そのものが閉じた形の時間的性質を持っているので“着”との親和性がない。これとは逆に，“等”のような継続動詞では，始点と終点が明示されない限り（39c）のように開いた形をしているので“着”が下接され得る。ここに“三个小时”のような時間量を明示する成分が付加されると，（39b）のように出来事は閉じた形で把握されたことになり，“了”が選択される。[21]

以上のように，井上・黄（2000）は“了”と“着”の対立，及び日本語との違いを本質的に捉えたものであるといえる。しかしながら，冒頭のDの例（5）（6）は素朴には＜開いた形＞，Fは＜閉じた形＞をしているように

21　この箇所について，任鷹氏より“三个小时我等着他”が可能になるというご指摘を受けた。この場合は時間量を表す成分が統語的に動詞から離れた主題位置に置かれているので，動詞に対する影響力を失っているものと考える。従って，＜閉じたカタチ＞には意味のみならず，統語的な条件も関与するものと思われる。

思われる。これらの例には，さらに説明と考察を加える必要があるだろう。

3.3　D 及び F の問題

F（10-11）に関しては，武信（1978）に同種の例の指摘が見られる。武信（1978）は「「伝達動詞」につく「着」には，「了」的要素がある」として，以下の指摘をしている。（以下，引用箇所における例文番号は小稿のものである。）

次のような日本人学生の日訳に対し，中国人留学生から疑問が提出され，結局，傍線部分の訳に訂正をみた。

（40）田政委含笑说：“……，”他扬手招呼刚接完电话的梅英姿，“……。”
说着，他挥动了一下粗壮有力的手臂，……
〔日本人学生訳例〕
田政治委員はほほえんで言った。「～」彼は電話を受け終えたばかりの梅英姿を手を挙げて呼んだ。「～。」と言いながら，彼はごつい力のありそうな腕をさっと振り，～
〔中国人留学生添削例〕
といいながら→そう言うと

武信（1978）の指摘を継いで，中川（1979:64-65）は，さらにこれが伝達動詞だけの問題ではなく，継続動詞の問題であるとし，中国人研究者の指摘によれば，光生館日中辞典の「いちどう」の項の，

（41）一同言いあわせたように彼をみた／大伙儿不约而同地看了他。

の下線部は，次のようにいずれかに改めるべき，という例をつけ加えている。

（42）a. 看着他　　b. 看了他一眼。

また，同論文における「「説着」の問題は，「到」のような動詞に見られる「特異性」のまさに裏返しの事実」（p.64）という指摘や，「「説・看・走」のような動詞が意味するところの行為には，厳密な意味での『終了』は存在し

ない，あるのは行為の持続と中断のみであり，いつでも再開可能なのである。「説着」の問題は，かような論理的事実に中国語が敏感に対応しており，日本語がそうでないという『ズレ』に起因する。」（p.65）という指摘は，極めて示唆的である。

ここでは，（18b）に挙げた“死”などの変化動詞に“着”が下接し得ないことと，逆に“说”や“看”などの継続動詞において，日本語の完成相に“着”が対応する場合のあることは，表裏の関係にあるということが言われている。

（41）の日本語が「シタ」形なのは，動作をひとまとまりに完成的に捉えて，発話時から振り返っているからであるが，（42）から，中国語の継続動作は，数量を明示したり，限界点を際立たせなければならないような文脈でない限り，＜閉じた形＞とはならず，依然継続的なものであることが分かる。この点は，F（9-11）も同様である。また，（40）については，「言う」行為が後に続く「腕をさっと振る」行為の背景的動作の位置づけにあるという事情も作用している。

さらに説明を付け加えるならば，継続動詞について，開始限界を際立たせる場合には“着”を用いるのは不適切であり，“了”を用いなければならない。そのうち，日本語の感覚と著しく異なるのが，聞き手の主張と矛盾する主張を行う場合（D の例（5））や，人物が常態と異なる状況にあることを対比的に前景化する場合（D の例（6），脚注（i）（ii）の例）である。D の（5）については，目的語の数量を限定的に主張する“就”が“了”を要求している可能性も高く，“了”の用法が数量限定（空間）と時量限定（時間）の両方に関わっている点が注目される。

次の（43）は泣いた原因に焦点が当たっているので，中国語では開始限界が際立たせられることとなり，“了”が選択される。一方日本語では，視点の置かれる発話時が「泣く」出来事時に含まれているので「ている」が選択される。

(43)〔話し手は子供が泣き始めた場面を目撃していない。〕

J.「あれ？この子，どうして ＊泣いた／泣いている の？」

C.“哟，这孩子怎么 哭了 / ＊哭着 呢？”

日本語のアスペクト形式の対立においては，当該の動作とその前後の動作が，継起的であるか，同時的であるかが重視されている。すなわち，基準時と出来事時などといった，少なくとも二つの時点の時間軸における相対的先後関係が重視されている。これに対して中国語では，その動作の存在が話の進行上前面に押し出すべきものなのか（“了”），背景的なのか（“着”），前景的な動作である場合は，限界点（開始限界や終了限界）が視野に含まれるか（“了”），含まれないか（“在”），などが形式選択上より重要視されている。

4．まとめ

日本語では，継続相が習慣的動作を表す場合があるが，中国語の習慣的動作は通常無標の動詞が用いられ，アスペクト標識を用いてはならない。

中国語において，アスペクト対立を持たない静態動詞は，日本語のそれよりも広範囲にわたる。

中国語では文脈によって，動詞が無標の形で継続相を表すことがあるが，日本語のアスペクト形式選択は義務的である。

日本語のアスペクト対立は出来事時と設定時の関係，すなわち時間軸における話し手の視点と出来事の相対的位置関係を重視する。これに対して，中国語のアスペクト対立は出来事の形状や情報的価値を重視しており，中国語のアスペクト形式選択における視点や主観性は，出来事のどの形状の部分を，どの距離から切り取るかという点に現れる。

＜参考文献＞

［日文］

荒川清秀　1985.「“着”と動詞の類」,『中国語』７月号：30-33。

――――　1986.「中国語動詞の意味における段階性」,『中国語』９月号：30-33。

――――　1991.「中国語入門第５回　テンスとアスペクト」『中国語』８月号：17-21。

陳淑梅　1997.「「～テイル」の中国語訳についての一考察」『慶応義塾大学日吉紀要言語・文化・コミュニケーション』19：23-33.

伊原大策　1982.「進行を表す「在」について」『中国語学』229：1-11。

木村英樹　2000「「付着」の“着 /zhe/”と「消失」の“了 /le/”」『中国語』７月号：24-27+12。

金水敏　2000「時の表現」金水敏，工藤真由美，沼田善子 著『日本語の文法２ 時・否定と取り立て』（岩波書店）：3-92.

――――　2001「テンスと情報」『文法と音声』Ⅲ（くろしお出版）：55-79。

工藤真由美　1995.『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』ひつじ書房。

丸尾誠　2006.「中国語の持続・進行表現に関する一考察―“V 着”と“在 V”の比較を通して」『動詞アスペクトの対照研究』：117-136。

森宏子　2000.「平叙文における“呢”の機能」『中国語学』247：267-281。

中川正之　1979.「「着 -le」と「了 -le」」『アジア研究』創刊号，広島大学総合科学部アジア研究講座：59-67。

太田辰夫　1947.「北京語における“進行”と“持続”」『中国語雑誌』２巻２号・３号。本稿は，太田辰夫著1995.『中国語文論集　語学篇・元雑劇篇』汲古書院10：32-43，を参照した。

――――　1950.「続“呢”と“哪”について」『中国語雑誌』５巻２号・３号。本稿は，太田辰夫著1995.『中国語文論集　語学篇・元雑劇篇』汲古書院10：57-89，を参照した。

讃井唯允　2000.「“在等”“等着”“在等着”」『人文学報』No.311：53-73.

朱継征　2000.『中国語の動相』白帝社。

菅谷有子　1996.「V- テイルに対応する中国語アスペクト」『小出記念日本語教育研究会論文集』No.5：163-186。

竹越美奈子　2001.「時間副詞「在」の合理性」『中国語』497：26-29。

武信彰　1978.「現代文学作品中の「伝達動詞＋着」―「着」の側面観」『中国語学』225号。

寺村秀夫　1984.『日本語のシンタクスと意味』（くろしお出版）。

藤堂明保・相原茂　1985.『新訂中国語概論』（大修館書店）。

[中文]
陈平　1988.〈论现代汉语时间系统的三元结构〉《中国语文》第６期：401-422。
陈前瑞　2008.《汉语体貌研究的类型学视野》商务印书馆。
方梅　2000.〈从“V 着”看汉语不完全体的功能特征〉《语法教学与研究》（九），商务印书馆：38-55。
郭锐　1993.〈汉语动词的过程结构〉《中国语文》第６期：410-419.
——　1997.〈过程和非过程——汉语谓词性成分的两种外在时间类型〉《中国语文》第３期：162-175.
李临定　1985.〈动词的动态功能和静态功能〉《汉语学习》第１期：6-10。
马庆株　1981.〈时量宾语和动词的类〉《中国语文》第２期：86-90，本文参看的是马庆株著《汉语动词和动词型结构》（1992），北京语言学院出版社：1-11。
沈力　2006.〈汉语的基本事象与体貌标记〉『現代中国語研究』朋友書店。
石毓智 · 李讷　2000.《汉语语法化的历程——形态句法发展的动因和机制》北京大学出版社。
下地早智子（印刷中）〈明治以后汉语教本里所见的“未完整体标记”的用法特点〉

＜用例出典＞
（常用词）：李晓琪 · 刘德联等编（1997）《汉语常用词用法词典》北京大学出版社。
（雷）　：「雷雨」『中国话剧选（一）』上海文艺出版社.
（贫　嘴）：《贫嘴张大民的幸福生活》1998，北京电视艺术中心，北京电视台摄制。
（田教授）：《田教授家的二十八个保姆》1998，吴培民导演，广州音像出版社出品。
日本語訳は月刊『聴く中国語』（日中通信社）2010年に連載。
（玩）　：「玩主」『王朔自选集』华艺出版社.